

2023 年度 自己評価 結果及び対策・改善報告書

評価項目	評価結果 及び 対策	改善結果（進捗状況）
I、環境・体制整備について	○利用児に対する職員の配置数は基準を満たしているが、支援計画作成時期や準備業務においてはまとまった時間の確保が難しい。毎朝の再調整において、直接支援業務時間以外で個別に時間確保できるよう調整を重ねた。	○毎朝、職員と利用児の数が確定した段階で、フリー職員による柔軟な職員配置と再調整を速やかに行い、リーダー職員によりクラスの状況に応じて調整することで、こどもに合わせた環境を変えずに時間確保を行っている。
II、業務改善	○本年度より階層別研修を実施。個々のレベルに合わせた研修参加が行えている。コロナが5類に移行したことで外部研修への参加も積極的に再開している。勤務時間により参加が難しい職員もいる為、web研修を取り入れ自由な時間で受講できるようにし、参加できない時は伝達研修で補うよう対策をとった。 ○事業所の自己評価について実施、公表共に行っているが職員全体に十分に周知されていない。公表時は文書を添えて周知を行う。	○階層別研修については、すべての職員が参加できる勤務調整を行えている。外部研修にも積極的に参加しているが参加の偏りはみられる。 ○ご利用者満足度調査の結果について職員全体で共有し、頂いたご意見をもとに対策を講じている。自己評価についても支援の質の向上や運営化全に向け職員全体で検討と対策を継続している。
III、適切な支援の提供	○日々の活動プログラムは個別の対応を含めて検討し実施できている。ICTを活用したリハビリシステムを導入し活動の固定化がされないよう取り組んだ。月次プログラムの立案は前月次の評価をもとに職員間で検討し相違の上で行っている。	○活動案を立てる時点でICTを活用したリハビリシステムも活動に組み込まれ定着しつつある。実施しながら工夫や改善をしていけるよう毎月会議を開催している。

	<p>○日案については振り返りを行い支援の改善とコカ的な継続につなげている。実施が難しい日は翌朝行うなどクラス内で時間の調整を行っている。</p>	<p>○日々の振り返りを通してクラス間での情報共有と支援の振り返りを実施し、必要な意見交換と支援の改善が行えている。併設するこども園も含めた他クラスとも適切な情報共有ができるように機会を設けていく。</p>
IV、関係機関や保護者との連携	<p>○コロナが5類に移行したことで、併設するこども園との日常の交流機会を多く設けることができた。</p> <p>○療育参加を再開し、保護者に療育の様子を知っていただく機会とした。また家庭訪問を再開し、家庭での困りごとや様子について共有する機会を設けた。</p> <p>○体調不良時や医療的ケアに関しては主治医と書面でのやりとりを実施。療育内での特別支援（リハビリ）や看護内容等についての必要な医療情報については看護師や作業療法士など専門職より、保護者から積極的にいただくようにした。</p> <p>○事業所運営を続ける中で得た地域の状況や利用者の声等、自立支援協議会の作業部会にて発信しつつ利用者支援に通じる通じる情報や学びを得た。</p>	<p>○引き続き、こども園とともに、施設内での交流に向けた企画と準備を計画的に進めるとともに、日常的に交流が図れるよう、それぞれの環境と子どもへの配慮事項を共有する。</p> <p>○保護者との対話時、機会を逃さず進捗と意思を確認できるよう、相談や助言内容をクラス職員全体で都度共有する対策を続ける。</p> <p>○保護者に了解を得ながら、医療機関との連携や調整を行う。状況や時期により、医療連携に向けては、併設する訪問看護ステーション等と協働し、より効果的に実施する。</p> <p>○事業所職員各々が地域福祉への視点と意思を持ち、積極的に参画していけるような機会を大切にす。</p>
V、保護者への説明責任等	<p>○ICTシステムの機能を活用し、速やかな情報伝達が行えた。</p>	<p>○感染症発生時や緊急時など、保護者に向けた情報提供やお迎え要請について施設内で対応や時間に差が生じないように引き続き対策を講じる。</p>

	<p>○保護者間交流の機会として開催しているグループキラキラ（クラス職員によるグループ面談）について保護者の声を反映し土曜開催を開始。すべての保護者の参加は難しい状況だが以前に比べ参加者は微増した。</p>	<p>○グループ面談は、参加した保護者から継続希望が多く聞かれたが、まだ参加に至らない家庭もある。実施後にアンケートを行い、保護者からの声を汲み取りながら、希望に添った内容や方法で実行する。</p>
VI、非常時等の対応	<p>○月次の防災訓練について、併設するこども園、訪問看護ステーションとともに、年間計画に基づき、さまざまな状況を想定した実施ができた。引き渡し訓練時防災意識を高めるために、非常食の体験を実施した。</p> <p>○BCP 作成と感染行動訓練を開始。</p>	<p>○こどもに合わせた非常食の形態を保護者とともに考える機会となった。今後も保護者とともに一歩踏み込んだ体験型の訓練や対策が行えるよう次年度も内容を検討する。また、消防署や施設設備管理者による消火栓の取り扱い指導を含めた火災発生時の初期対応の訓練も行う予定で準備を進めている。</p>

【 まとめ 】

今年度はデジタルリハビリツールの導入による活動プログラムの再構築、土曜日のグループ面談により仕事をしている保護者にも参加を促す、保護者参加型の防災訓練として起震車体験など新しい取り組みを行った。また、コロナが5類に移行したことにより施設内こども園と一緒に活動を経験するなど日常的な交流の機会を増やすことができた。今後も活動プログラムや行事等に、保護者の意見を取り入れながら、それぞれのこどもの状況に沿った療育の提供と、支援を要するこどもたちへの災害時の対応を、保護者とともに考える機会を設けていく。

最後に、行政をはじめ関係機関からの助言や情報提供、連携を通じて、事業所運営が適切に効果的に継続できたことに感謝する。事業所としての発展は、子どもたちの姿、保護者の声に真摯に目を向け耳を傾け、地域や関係する機関とともに進むものであると改めて感じる。次年度も、頂いたご意見を力添えとし、こどもたちの発達支援とそれを支えるご家族、地域のご要望に応えられるよう職員一丸となって対応していく所存である。